

今月の特集

涼しく快適な住宅をつくる

暑さをしのぐ家づくり

近年は気温の高い日も多くなり、ますます重要になっているのが暑さ対策です。夏を快適に過ごすことができる住宅は、どんなところが違うのでしょうか。

日差しを遮り、風が通ることで夏に心地よい住宅を

気温が35℃を超える日を猛暑日、夜間の最低気温が25℃以上となる日を熱帯夜と呼びますが、近年はどちらも増加傾向にあり、子どもや高齢者の熱中症予防をはじめ、暑さ対策はますます重要な課題になっています。こまめな水分補給や衣服の調節とともに、夏を快適に過ごす家づくりについても関心が高いのではないのでしょうか。

屋内を涼しく保つための第一のポイントはまず、直射日光を入れないこと。閉め切った室内では、日射が入ると室温が外気温以上に上昇します。日除けは屋外に設けるのが効果的。簾やオーニ

ング、ツル植物を用いたグリーンカーテンにも注目が集まっています。古くからの日本の住宅は軒(「住まいるの知恵袋」参照)が深くなっていますが、これは夏の強い日差しを遮り冬の日光を十分に取り入れるため。家づくりにおいては窓の配置や面積、遮熱ガラスなどを方角や周辺環境に応じて検討します。

自然の風を取り入れやすいことも心地よい家づくりにつながります。向かい合う2カ所に開口部があると風の通り道に。暖かい空気は上に向かうため、開口部に高低差をつくるのも有効です。

高断熱高気密は暑くない、涼しさが持続する理由

真夏の暑さに無理は禁物。必要な

ときはエアコンや扇風機などの冷房は我慢せず、適切に使用することも大切な心がけです。冷房効率を大きく左右するのが住宅性能で、暑い日の外気の熱を壁・天井が十分に遮断できることが必要です。「FPの家」は魔法瓶のような優れた断熱性と気密性を発揮し、冬の寒さだけでなく夏の暑さもシャットアウト。冷房の光熱費を抑えながら冷気を逃すことなく床や壁・家具に蓄積し、ひんやりとした爽やかな涼しさを維持することができます。高気密高断熱住宅は冬場の暖かさを保つだけでなく、外気の影響を受けない一年中快適な室内環境を実現できることに大きなメリットがあるのです。

また、快適な室内環境には気温だけでなく湿度も重要です。「FPの家」は24時間計画換気を採用し、余分な湿気や汚れた空気を排出し外気を取り入れるため、いつでも涼しさと新鮮な空気を両立することができます。

優れた断熱性能は設計の自由度にも良い影響をもたらします。例えば吹抜やスキップフロアを設けると夏場に上階が暑くなるのではないかと懸念も、家全体が同じ室温に保たれていれば心配はご無用。冷暖房効率を落とすことなく、設計においても様々なチャレンジが可能になります。



住まいるの知恵袋



軒(のき)

軒と庇(ひさし)は混同されがちですが、軒は屋根が家の壁面から外側に出ている部分、庇は玄関や窓の上に設ける突き出しのこと。軒先、軒下といった言葉もお馴染みですね。

住宅における軒の役割は主に、夏場の強い日差しを遮って室内温の上昇を抑えること(特集参照)、窓や玄関の雨除け、雨に含まれる空気中の汚れの付着や直射日光によるいたみから外壁を守り、長持ちさせることの3つが挙げられます。

軒の出(壁から軒先までの距離)は90cmが標準的。設計上の理由で軒を用いたくないという場合は、外壁に汚れの落ちやすい素材を使用するなど配慮を忘れずに検討しておきましょう。

できた! カンタン DIY



木材の種類

DIYの用途に合わせて選びたいのが木材の種類。大きくは無垢材、集成材、合板に分けられ、それぞれ特徴も異なります。

無垢材とは原木から切り出してそのまま製材加工したものを指し、自然な肌触りと表情が魅力。収縮膨張による反りの発生には留意が必要です。加工しやすく比較的安価なのはスギやSPFなど。タモは硬く木目が整っているため家具に向いている素材です。高級材料で知られるヒノキは芳香と防虫性があり、耐水性・耐久性にも優れています。

集成材は小さな材を接着したもので面積の広い天板などに。薄い板を重ねた合板は厚みの種類が豊富で選びやすいのが特徴です。

¥ おカネの豆知識

フィンテック



金融(ファイナンス)とテクノロジーを合わせた造語。携帯電話などモバイル端末による決済、クレジットカードの利用履歴で家計簿を自動作成するアプリなど、日常生活にも広く浸透するようになりました。融資の判断や資産運用のアドバイスを迅速に行うサービスも登場し、今後の発展が期待されています。

👉 暮らしのワンポイント

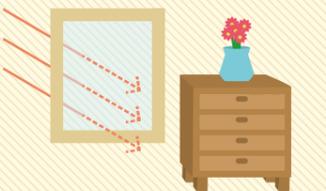
風鈴



夏の風物詩といえば風鈴。ガラス製で繊細な音色の江戸風鈴、南部鉄器製で透き通った余韻が響く南部風鈴が代表的です。サイズによっても音色が変わり、高周波や倍音、音の揺らぎがリラックス効果をもたらすといわれています。ただし、不在時や夜間はなるべく屋内に取り込んでご近所への配慮を。

教えて! Dr. 住まいる

床・家具の日焼け対策



日差しの入りやすい部屋はフローリングや畳・家具が紫外線の影響を受けることも。レースカーテンを開けたり、家具は定期的に配置替えることで跡が残りにくくなります。遮熱性能のあるガラス窓も有効。方角や周辺環境を考慮して家づくりの際に相談するのが良いでしょう。



おかげさまで、「FPの家」グループ誕生30周年